

5月25日 聖日礼拝レジュメ 伝道者の書1章4～7節

4節「去り」「来る」「いつまでも変わらない。」6節「吹き」「吹く」「帰る」7節「流れ込む」「帰って行く」＝行為の継続性を表すことば。世の始めからずっとこれらのことが継続的に変わることなく行われていることを示す。永遠に変わらないように思える自然の営みと人生の短さの対照を思えば、そこに空しさを感じないだろうか。

5節「日が上り、日が沈むこと」単調な繰り返しで。何の目的もないように思える。これが私たちの人生ではないか。

6節「風は南に吹き、巡って北に吹く。巡り巡って風は吹く。」思いのままに吹く風には何の目的もないように思える。これが私たちの人生をも表していないか。

7節「川はみな海に流れ込むが、海は満ちることがない。」川の水が海に流れ込むことの繰り返しで、これが私たちの人生なのか。

しかし聖書を見ると私たちの目には何の目的もないように思える自然界の動きもすべて神の支配の中にあり、すべてに神は目的をもっておられてその通りになさっておられる。

神が、すべてのものを目的をもって造られた。すべてのものが私たち人間に対する恵みと配慮によって造られた。

もし私たちが神を抜きにして自分の人生を考えようとすれば、自分の人生も意味なく単調な日々の繰り返しのよう思える。人生の目的を見失ったのは、私たちが神を離れ、神を見失い、すべてを自分中心で生きる人生にしてしまったから。＝罪、的外れな人生と聖書は言う。自分中心の人生から神中心への人生の回復が必要。私たち一人一人も決して意味なく存在している人はいない。神によって自分の存在価値を見出す。